

JICE研究開発助成



情報・企画部
主任研究員
山内 能章

1 JICE 研究開発助成の概要

JICE では、平成 11 年度に「JICE 研究開発助成」の制度を創設し、平成 30 年度までに延べ 265 件の研究に対して助成を行ってきている。研究開発助成制度は、各分野の先進的技術の研究開発を促し、住宅・社会資本整備を通じてより良い国土の利用・整備又は保全に寄与することを目的として、JICE の公益事業として実施している。

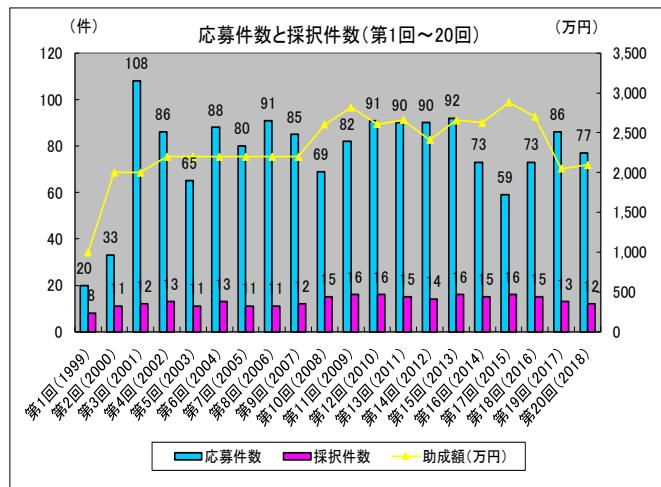


図-1 JICE 研究開発助成 応募件数と採択件数推移

JICE 研究開発助成は、建設分野のみに留まらず、人文系、社会科学系及び自然科学系の分野の研究においても社会資本整備に資するテーマであれば、幅広く研究内容を応募していくことを考えており、大きくは①応用研究課題、②重点研究課題の 2 分野の研究課題について公募を行っている。

2 第20回研究開発助成

2018 年度の第 20 回研究開発助成については 77 件（継続

研究含む）の応募を受付けた。これらの応募研究に対して、研究開発助成審査委員会における厳正な審査により優れた研究開発 12 件（継続研究含む）の研究を助成研究として採択し、2019 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日までの期間において研究が進められているところである。

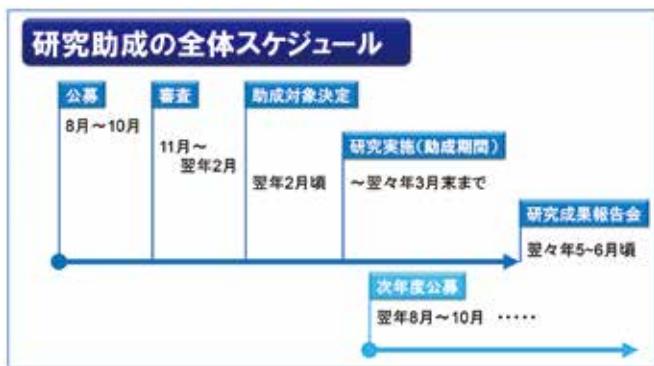


図-2 JICE 研究開発助成 全体スケジュール

3 第21回研究開発助成 募集

2019 年度の第 21 回研究開発助成の助成対象の募集は、2019 年 8 月 1 日～10 月 31 日で受付を予定している。

助成の対象は、2018 年度と同様に住宅・社会資本整備に係わる先進的な研究・技術開発とし、応用研究課題、重点研究課題としてそれぞれ課題を設定している。また、助成対象とする研究者は、原則として大学、高等専門学校及びこれらに付属する機関等の研究者または民間企業の研究者（学生は対象から除外）としており、助成額は 1 件につき原則として単年度 200 万円以内、1 つの研究テーマに対する研究開発助成は 2 ヶ年を限度としている。詳細は、募集開始後に JICE ホームページに掲載するので、是非ご覧いただき、積極的な応募をしていただきたい。

4 第19回研究開発助成 成果報告会

研究開発助成を受けて研究を実施した成果については、その先進的な研究による知見をより多くの皆様に役立てていただくために、例年、発表の場として研究開発助成成果報告会を開催している。

2017年度第19回研究開発助成を受け、2018年度に研究が実施された13件の研究成果については、成果報告会を2019年6月5日(水)にJICE会議室において開催した。

表 第19回研究開発助成成果報告(2017年度採択研究)研究課題一覧(発表順:敬称略)

発表順	研究課題名	研究者名	発表順	研究課題名	研究者名
1	セメント系改良地盤の効率的な品質評価手法に関する研究	大成建設株式会社 技術センター 主席研究員 石井 裕泰	8	積雪道路におけるインフラライトなレーン誘導システムに関する研究	(元)秋田県立大学 システム科学技術学部 教授 御室 哲志
2	MEMSセンサを活用した鋼道路橋の疲労環境評価に関する研究	東京都市大学 都市工学科 准教授 関屋 英彦	9	都市間道路の途絶・復旧・整備の統合評価手法に関する研究	千葉工業大学 創造工学部 都市環境工学科 教授 佐藤 徹治
3	堤防破壊危険性評価と洪水流・氾濫流解析に基づいた流域水害リスクの分析と被害軽減策に関する研究	中央大学 研究開発機構 准教授 田端 幸輔	10	コンテクスト効果にもとづく歴史まちづくりにおける建造物の修景方法に関する研究	愛媛大学大学院 理工学部 研究科生産環境工学専攻 特任講師 白柳 洋俊
4	流路変動の発現による河道の危険性の物理的推定法の確立	新潟大学 災害・復興科学研究所 准教授 安田 浩保	11	人口シナリオを基にした持続可能性アセスメントによるグリーン・インフラ評価に関する研究	東邦大学理学部 生命圏環境科学学科 准教授 柴田 裕希
5	ハザード解析と堤防信頼性解析を融合した洪水リスク解析法の開発	新潟大学 自然科学系 准教授 大竹 雄	12	交通バリアフリーにおける市民参加によるアクセシビリティ改善策の実効性の定量的・定性的検証に関する研究	宇都宮大学 地域デザイン科学部 教授 大森 宣暁
6	出水時の変位モニタリングによる河川堤防の弱点箇所抽出に関する研究	山口大学大学院 創成科学研究科 准教授 森 啓年	13	まちの魅力づくりに貢献する舗装デザインに関する研究	一般社団法人 インターロッキングブロック舗装技術協会 会長 中村 俊行
7	降積雪地域における道路事業の適切な評価手法構築に関する研究	長岡技術科学大学大学院 環境社会基盤工学専攻 助教 伊藤 潤			



写真 第19回研究開発助成 成果報告会の様子(2019年6月5日)

成果報告会への参加者は100名を超え、研究に対する質疑や意見交換を行い、新たな技術への関心が寄せられた。

なお、成果報告会は、土木学会認定の継続教育(CPD)プログラムの認定を受け公開にて実施し、専門技術者の継続的な技術研鑽にも活用していただいている。

これらの研究の成果概要、発表資料についてはJICEホームページの研究開発助成事業で掲載しているので、あわせてご覧頂きたい。

(<http://www.jice.or.jp/review/assistance/results>)